

県関係文献紹介

○宝塚の昆虫（Ⅰ）（Ⅱ）（Ⅲ）．宝塚市教育委員会刊．1992年2～3月

なかなかの力作である．宝塚に産する昆虫を一種づつ写真（標本写真）で示し簡単な解説．宝塚市内の産地データも加わっている．口絵にカラープレートが数葉ついている（生態写真及び標本写真）．

（Ⅰ）は半翅目（74-252）（番号は図示番号），チョウ（253-332）を主体にまとめられ数名の方による協力作成であるが東 正雄先生がまとめをしておられる（総ページ 217p. アート紙）．

（Ⅱ）は甲虫目（Ⅰ）でありナガヒラタムシ科からコメツキムシ科まで345種収録されている．執筆は数名の方々による分担執筆であるがまとめは小田中 健氏である（総ページ 168p.アート紙）．

（Ⅲ）は蛾類（Ⅰ）でコムリガ科からトラガ科まで451種収録．多くの協力者を得て東 正雄先生が全体の執筆をしておられる（総ページ 286p.アート紙）．

なにせ昆虫全部をまとめようというのであるから大変だと思われる．予定によるとこのあとⅣ（甲虫，2），Ⅴ（ガ類2），Ⅵ（ハエ，ハチ，カゲロウ等），Ⅶ（補遺）が平成5年度にかけて出版されるとか．全部が出来上がると非常に有益な文献となる．その完成を切に望んでいる．

本書入手について色々とお配慮頂いた協力執筆者のお一人新家 勝氏に厚く御礼申しあげる．

○ 佐用ライオンズクラブ刊．千種川の生態

〔水生生物調査〕第19集（平成3年秋）（1992）

相変らず息きの長い生態調査報告書である．多くの地元小・中学生の協力の下にまとめられている．今回は表題にあるように平成3年秋実施された調査をまとめたものである．調査の千種川の生物相の変化がわかってきて大変参考になる．

○ 〔没後50周年記念〕郷土の偉大な博物学者・大上宇市〔新宮町文化財調査報告．17〕1992・Ⅲ刊．137p.

大上宇市氏は日本人による兵庫県下での始めて昆虫相について数多くの報文を発表された方で昆虫に関心のある者にとっては忘れることの出来ない方であるが地元とか今回の記念誌などによると植物とか貝類の業績が高く評価されているようである．かなり詳しい資料が収録されているのだが昆虫についてはあまり見るべき記録も無い（勿論標本も残っていないと思われるので——）．筆者も大上宇市氏が発表した昆虫に関する文献はほとんど所有しているが当時の状況からして何の種を

意味しているのか良くわからない表現が多くあったりして今一つ標本が残っていたらなァと残念に思っているものである。調査委員の方の内に昆虫に関心を持っておられる方がいないからと思われるが――。この点虫やにとっては淋しい文献である。それでもなかなか立派な報告書ではある。この文献を御教示下さり入手の御世話をして下さった相坂耕作氏に厚く御礼申しあげる。

尚昭和62年（1987）8月19日～9月6日兵庫県立西播磨文化会館において“大上宇市資料展”が開催されている。このことは兵庫生物 Vol. 9, No. 4, P.247-248（1988）にも紹介記事が出ているがこの資料展の説明資料を相坂耕作氏の御好意で頂いた。大上宇市氏の人となりとか主として植物関係の業績などの紹介がある。虫については何も紹介されていないが色々教えられる所が多い資料である。

○ 市縹・ジャコウアゲハ展。姫路市立科学館。1990。Ⅷ。

若干古い文献で申し訳ないが姫路市立科学館で平成2年8月4日～19日の間市縹制定1周年記念。市縹・ジャコウアゲハ展が開催されそれを記念して相坂耕作氏が中心になってジャコウアゲハに就いての色々な角度からの解説書が出版された。相坂氏の御好意でこの程1部御送りいただいた。なかなかよくまとまった文献である。ただこの展覧会に行った人は勿論入手されているだろうと思うが一般にはその存在さえも知らないといったもので大変残念である。なんとか一般の方にもPRして読んでもらえたらと思う。

○ こんちゅうノート 伊丹市昆虫館学習資料集1（1992。Ⅲ）

伊丹昆虫館で飼育している昆虫、展示している代表的な昆虫を写真をつけて解説、観察のポイントもまとめている。市立の小学校や幼稚園などに無料で配布しているとか。美しい表紙と共に楽しい本である。一般にも販売してくれる。尚同昆虫館では1990年“伊丹市昆虫館ワークガイド”と言うなかなか愉快的な本を出している。

○ クワガタムシ&カブトムシ。伊丹市昆虫館第3回特別展 「クワガタムシとカブトムシ」解説書
1992年7月18日～9月27日の間伊丹市昆虫館の第3回特別展として開催された「クワガタムシとカブトムシ」の同名解説書である。僅か10頁のものであるが写真をたくさん使った生態・形態を中心とした解説書でなかなか充実した内容になっている。

○ 因幡のむし No.27（Mar.1992）

鳥取大学昆虫同好会の会誌で年1回の発行のようである。本会の会員である永幡嘉之氏が同大学

に入学されて今回の27号は同氏の編集によるものである。氏は目下兵庫県の氷ノ山、扇の山、浜坂あたりを精力的にチョウとかカミキリムシを調べておられその結果の1部が本誌上に発表されている。例えば“但馬のカミキリムシ 91”では77種も記録されており（全部データ付）中には注目すべき珍しい種もふくまれている。蝶についても生地三木周辺の蝶とか但馬の蝶にもふれた貴重な記録があるので兵庫県関係の文献としてどうしても見逃せないものである。扇の山、氷ノ山とも自然破壊は大きいようである。今の内調べておいてもらいたい。多くの虫達が幻の虫になる恐れは充分あるから。

貴重な本誌を御恵送下さった永幡氏に厚く御礼申しあげる。

○ 人と自然 第1号（IV、1992）。（兵庫県立人と自然の博物館）

兵庫県立人と自然の博物館の研究紀要「人と自然」第1号が送られて来た（発行月日は1992年3月となっており今回のは設立準備室発行になっている。送られて来たのは8月7日）。81p. 総アートの紙のきれいな文献で6論文が収録されている。昆虫に関する論文も次の2篇が入っている。大谷剛博士による蜜蜂に関する論文（英文）。橋本佳明博士の蟻の下唇鬚についての論文（英文）。プロの研究論文集であるから格調の高い文献である。

○ 神戸新聞社。森への招待。ひょうご昆虫ウォッチング（のじぎく文庫。IX、1992）

（神戸新聞総合出版センター刊）

昭和63年（1988）6月24日から神戸新聞の紙上でスタートした昆虫スケッチ「森への招待」シリーズ。平成3年（1991）8月迄に発表になった103種の昆虫達を紹介されている。カラー写真とモノクロと両方はいっている。プロの写真屋の撮影であるからどれも良く出来ているただ写真撮影のデータが全く無いが入れてあった方が良いのではと考える。文は三木進氏が担当である（虫に詳しい方だから面白い記事になっている）。